

安乗人形舞台について

(建築概要)

舞 台 / 木造平屋建 切妻造棧瓦葺
建 築 年 / 安政7年（1860年）2月に建設
明治23年（1890年）、昭和56年（1981年）大改修
評 価 / 昭和45年2月、東京都立工業短期大学山崎構成教授が実地調査
「徳川後期の形式を残している船底型舞台であり、今のところ岐阜県の
真桑、長野県下の黒田と安乗の三舞台が、幕末の形式を残している。」
その他 / 建物 明治32年度市所有、 用地 平成27年度市所有

太夫小屋 / 木造平屋建 入母屋造棧瓦葺
建 築 年 / 昭和（戦後）建設 平成20年度（2008年）修繕

(建築解説)

原型は安政7年に建てられたとされる。舞台は明治23年に大修理とともに後方へ曳き屋され、客席となる舞台前面の広場を確保している。さらに昭和56年には原型復旧を主眼において修理され、全国に数少ない舟底型舞台を今日に伝えている。

天井を張らずに和組の小屋裏を見せ、床は3分され、客席側より「下段」「上段」「上上段」と呼ばれる。下段は「舟底」と呼ばれる一段低い構造で、最も奥には畳敷の楽屋を配置する。太夫小屋は、舞台上手隅から斜前方に張り出すように増築されているが、戦後に付加されたものである。元の太夫座は上手舞台内に残り、現在は倉庫として使用されている。

安乗舞台は、船底型の人形専用舞台であるが、この舞台は歌舞伎にも使用される。黒田の舞台が舟底型人形専用舞台としての完成度をみせるのに対して、安乗の舞台は人形専用舞台から歌舞伎兼用舞台へ一歩移行させたものと評価することが出来る。その意味で安乗人形舞台は舟底型固定式から舟底型仮設式へ移行する中間の段階を示す舞台として注目すべき特色をみせている。

また、現存する付舞台の例は、この安乗の舞台以外に聞かないだけに、一層貴重な資料と言える。

